

2024年1月9日



『朝礼時講話～報告事項』

(1) 講話【被災地に思いを馳せる白目の前の暮らしを尊ぶ】

新年を迎えました。改めまして、本年も宜しくお願い致します。昨年暮れに、

「今年もお世話になりました。来年もよい年を迎えられますように…」

と、お年寄りに、職員に、家族に、友人に、そして行き会う地域の方々などにこのような言葉を掛けた私であります。年越しの鐘を鳴らし、新年が明けると、迷うことなく、

「新年あけましておめでとうございます。」

と申し上げていました。元旦の夕方のニュースに出会うまでは…。

北陸の方々も、多くの方が年越しと年初めに、どんな一年にしたいか語ったり、笑いあってスタートしたのだと思うのです、私たちと同じように…。でもあの大地震で一変してしまった…。一方で多くの日本の地域があたり前の日常を送っています。報道も震災ばかりではなく、その他の地域の経済活動が停滞しないようにと色々な番組を放映しています。これはある意味、其々稼働している暮らしも守らなければならないので、必要なことだと思います。

先週末、ある教育関連の研修会の後、主催者である会長さんが、交流会の席でこう仰いました。

「新年となりましたが、能登のことを想うと、`おめでとうございます、とは言えません。そして、`乾杯、とも申し上げられませんので、ご理解ください。」

と優しい語り口で仰いました。会長さんは、3.11の際、沿岸部で被災した某役場の副町長さんでもあり、その言葉に深い慈悲の心を感じ、私も涙が止まりませんでした。

今、私たちは能登のために何もできていません。今はできる事が限られていると、現地入りしている知人たちからメールが届きます。確かに今できる事はないのかも知れない。でも、先ほどご紹介した会長さんのように、自分の今いるところで、少しでも被災地に思いを馳せ、使う言葉に留意しながら過ごす事が大事ではないかと思うのです。被災地の方々に届けられる行為ではないのだけれども、そういった細やかな気持ちで暮らす事って、とても意味があると思うのです。

繰り返し言となりますが、日常の暮らしを大切に尊び向き合うこと。周囲の身近な人を大切に尊び、そして、少しの時間でも被災地に思いを馳せること。その心を大切に参りたいと思います。

尚、事務所前に『義援金箱』を置きます。お気持ち入れたい方は宜しくお願い致します。

(2) 連絡事項について

- ① 本日のショートステイはK.Oさん1名で、10時のお迎えで入居となります。
〔その後、予定通り入居されたが、38度台の発熱があり、お帰り頂く運びとなる。〕
- ② 本日、職員の認知症基礎研修があります。午後からMさんが予定されています。
- ③ 本日の対面の面会は3名です。S.Tさん9時30分、K.Iさん10時30分、T.Tさん11時30分となっております。
- ④ 洗濯員からです。新しく入居したお年寄りの名前の確認をお願い致します。
また、清拭を洗濯する際にゴム手袋が一緒に入っている事が何件かありました。洗濯物を出す際は、改めてしっかり確認をお願い致します。
- ⑤ 今日の午後から今年度の職員メンタルヘルスが始まります。今日の予定者は3人で、該当の職員には伝えてあります。明日以降の予定表がまだ出来ていませんが、声を掛けていきますので、対応のほう宜しくお願い致します。
- ⑥ 生活課長のRさんが、この3月で引退となります。今年度当初から、「最後の1年」という決意を心に秘めながら過ごしていらした訳ですが、いよいよ3ヵ月となりましたのでお知らせ致します。光寿苑の大きな柱が無くなるということで不安を懐かれると思いますが、この間にも、ご自分の持っている知識・技術・精神面に渡るまで、残る職員に継承しようと丁寧に取り組んでもらっています。あと3ヵ月、確かにタスキを受け継ぎながら、大事に過ごしましょう。

【講話と⑥理事長 ①～③生活相談員 ④洗濯員 ⑤メンタルヘルス研修担当職員】